

## 各 位

武雄・杵島地区農業指導連絡協議会  
 藤津農業指導者連絡協議会  
 杵藤農林事務所

「稲作情報（第9号）、大豆作情報（第6号）」について（送付）

このことについて、下記のとおり「稲作情報（第9号）、大豆作情報（第6号）」を送付しますので、業務の参考にしてください。

## 気象概況

月	半月	平均気温			最高気温			最低気温			降水量			日照時間		
		平年 (°C)	R1 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R1 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R1 (°C)	平年差 (°C)	平年 (mm)	R1 (mm)	平年比 (%)	平年 (hr)	R1 (hr)	平年比 (%)
7月	5	27.5	27.0	-0.5	32.4	30.8	-1.6	23.9	24.6	0.7	39.2	161.0	411	32.9	16.3	50
	6	27.8	28.5	0.7	32.9	33.3	0.3	24.1	24.9	0.9	36.3	29.5	81	42.8	46.0	107
8月	1	27.9	30.2	2.3	33.3	36.8	3.5	24.0	25.8	1.8	25.3	0.0	0	36.6	54.9	150

7月24日に梅雨明けすると、6半月の天候は高温・多湿で推移した。

8月1半月（～8/5まで）の気温は平年より高く、降雨は無かった。また、日照時間も平年比150%と長かった。

## 1. 情報田の生育状況（調査日：8月6日）

項目 品種 (設置場所)	年次	草丈 cm	茎数 本/m <sup>2</sup>	葉齢 L	葉色 SPAD	概 要
夢しずく (武雄市橋町)	本年値	87.4	334	12.3	32.1	葉齢は平年並み。草丈は平年よりやや高く、茎数は平年より少ない。葉色は平年よりかなり薄い。幼穂長は78mm
	平年値	82.4	377	12.5	35.0	
	平年比(差)	106%	88%	-0.2	-2.9	
ヒノヒカリ (白石町新明)	本年値	80.3	380	12.5	38.1	葉齢は平年並み。草丈は平年より高く、茎数は平年よりかなり少ない。葉色は平年よりやや薄い。幼穂長は2.6mm
	平年値	74.9	479	12.4	39.1	
	平年比(差)	107%	79%	+0.1	-1.0	
さかびより (武雄市橋町)	本年値	67.6	249	11.9	33.5	葉齢は平年並み。草丈は平年より低く、茎数は平年よりかなり少ない。葉色も平年よりもかなり薄い。幼穂長は0.7mm
	平年値	72.0	450	12.1	37.9	
	平年比(差)	94%	55%	-0.2	-4.4	

注) 平年値はH21～H30の10年間の平均。なお、ヒノヒカリについてはR1より耕作者が変更したため、平年値は参考値とする。

## 2. 一般田の生育状況

### 1) 夢しずく

現在、幼穂形成期～穂ばらみ期であり、止め葉が展開中です。

### 2) ヒノヒカリ

6月17日頃移植した圃場では、幼穂形成始期をむかえ、間もなく穂肥施用時期となります。7月下旬までは葉色が濃く経過していましたが、中干しの実施により7月末から葉色が低下しています。

### 3) さがびより

6月22日頃移植した圃場では、最高分げつ期を経過し、まもなく幼穂形成始期となる見込みです。

## 3. 今後の管理

### 1) 水管理

幼穂形成期となり、稲が水を要する時期となります。中干しをしている圃場は入水し、間断灌水を行ってください。今後、高温で晴天の日が続く場合は、田面が白乾状態にならないよう、水管理に努めてください。

#### 【台風通過後】

茎葉の損傷により根の老化が進むことがあるので、新しい水と交換し、こまめに間断灌水を行い、根の機能維持に努める。

茎葉の損傷で、白葉枯病等が発生しやすいので常発地では注意する。

### 2) 施肥管理

#### 夢しずく

穂肥施用時期を過ぎているため、穂肥を実施していない圃場は早急に診断結果を基に施用してください。草丈が80cm以上で、葉色が濃い圃場に穂肥を施用すると倒伏の危険性もありますので十分注意してください。

#### ヒノヒカリ

6月17日頃に移植されたヒノヒカリは、幼穂形成始期を迎えて、間もなく穂肥施用時期となります。下記の穂肥診断基準に基づく穂肥診断を必ず行い、適期に適量の施用となるようにしまし  
ょう。

【表 ヒノヒカリの穂肥診断基準】

草丈 cm 幼穂形成始期時	葉 色		穂肥施用時期			
	群 落	SPAD	出穂前	幼穂長	穂肥施用量 (N成分)	
80cm以下	淡い	3.0以下	34以下	20～22日	1～2mm	3.0kg/10a
	標準	3.0～3.5	34～38	18～20日	3～5mm	3.0kg/10a
	濃い	3.5～3.8	38～39	16日	5～15mm	2.5kg/10a
	濃い	3.8以上	40以上	15日	15～30mm	1.0kg/10a
80cm以上	淡い	3.0以下	34以下	20～22日	1～2mm	2.5kg/10a
	標準	3.0～3.5	34～38	18～20日	3～5mm	2.5kg/10a
	濃い	3.5以上	38以上	穂肥は施用しない		

## さがびより

穂肥の施用時期は、幼穂長10mmが基準となります。幼穂長5mm以上になったことを確認してから、下表の穂肥診断基準に従って施用してください。

【表 さがびよりの穂肥診断基準】

	幼穂形成始期の 草丈cm	葉 色		幼穂長	出穂前 日数	施用量 N成分kg / 10a
		群 落	SPAD			
穂肥診断時	7.5 cm以下 (標準)	2.5以下	33以下	5ミリ	20～18日	2.5kg
		3.0	33-37	10ミリ	18日	2.0kg
		3.5	37-38	15ミリ	16日	1.0kg
		3.8以上	39以上	施用しない		
	7.5 cm～ 8.0 cm	3.0以下	36以下	10ミリ～15ミリ	18～16日	1.5kg
		3.0以上	37以上	施用しない		
8.0 cm以上	施用しない					

## 3) 病害虫

### いもち病

本年は平坦部の圃場においても、葉いもちの発生が見られ、特に山沿いや山麓部で激発している圃場も散見されます。間もなく穂ばらみ期(出穂1週間前頃)となる夢しずくで、上位葉に病斑が見られる場合は、穂ばらみ期となる8月10日頃に穂いもち対策の薬剤防除を実施してください。

また、ヒノヒカリやさがびよりの圃場でいもち病の病斑が目立つ場合は、一回目の防除にいもち病の薬剤を混合して散布して下さい。一回目の防除以降、穂ばらみ期に上位葉に病斑が見られる場合は、夢しずく同様、穂いもち対策の薬剤防除を実施してください。

発生が著しい場合はオリブライト1kg粒剤を散布してください。

### 紋枯病

7月下旬より発生が散見される圃場があります。上位葉への進展すると、登熟を低下するため収量と品質に影響を及ぼしたり、倒伏を助長します。紋枯病菌は風通しの悪い圃場条件や、高温で多湿な気象条件を好むので、発生が多い圃場では薬剤防除に努めましょう。

### ウンカ類

本年はトビイロウンカの飛来量が多く、今後、早植え及び普通期水稻で発生が増加し、被害を生じる恐れが高まっています。本年はトビイロウンカと競合関係にあるセジロウンカの飛来量が少なく、8月の気温は平年並か高いと予想され、本虫の増殖にやや好適な条件となっており、被害を生じる恐れが高まっていることから、今後の本田防除の適切な実施が極めて重要です。については、図1を参考に、圃場ごとの発生状況を確認したうえで防除対策を徹底してください。

### コブノメイガ

本種に対しては、発蛾最盛期の7日後(幼虫ふ化揃い期)の防除効果が最も高い。田植え時期、地域、水稻の品種等の違いによってコブノメイガの発生量は異なるので、必ず圃場ごとの発生状況を確認したうえで、防除対策を講じましょう。

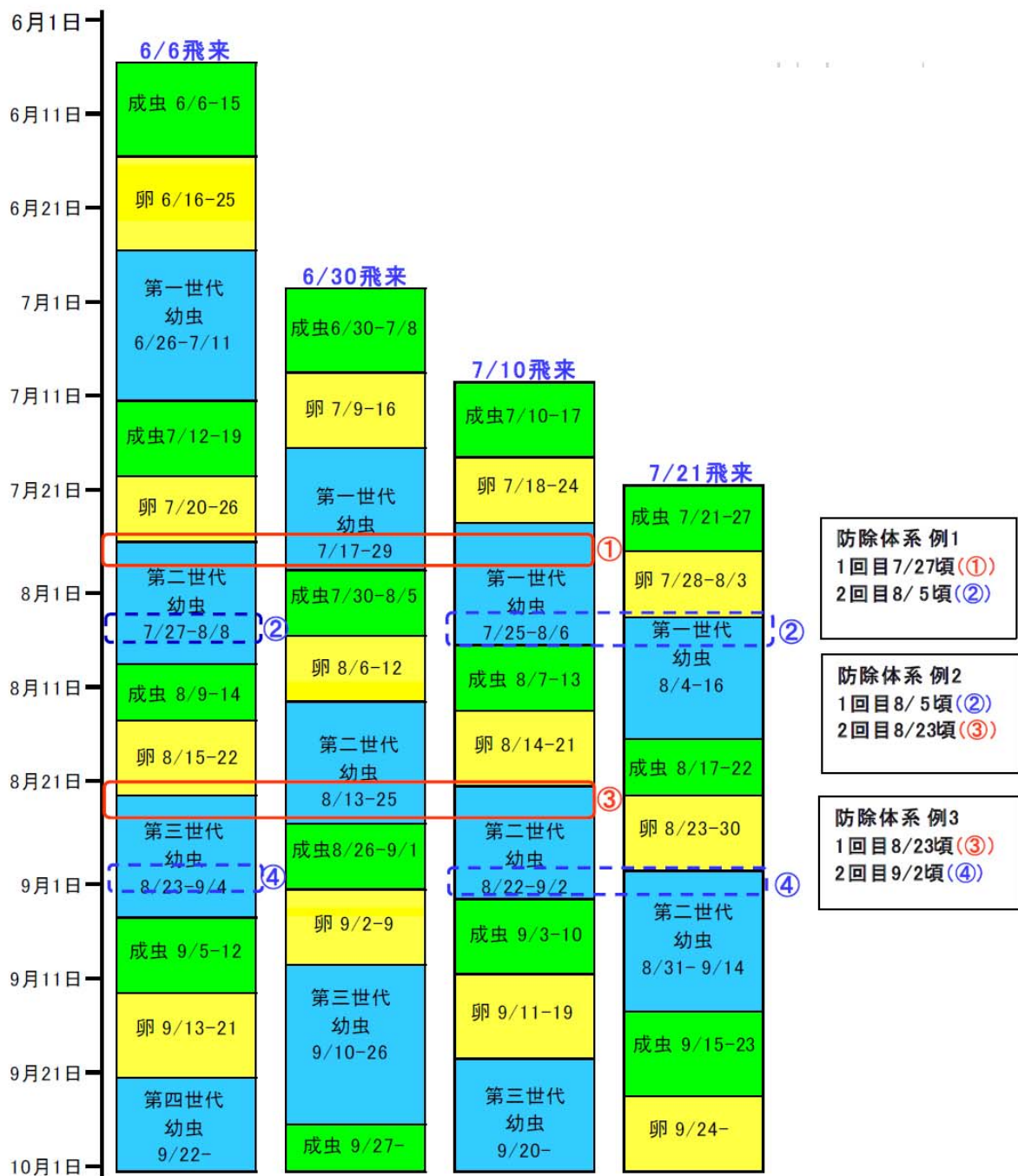


図1 トビイロウンカ各世代の発生予測(第5版、2019年8月1日作成)

- 6月6～7日頃(図では6月6日)、6月30日頃、7月10～11日頃(図では7月10日)、7月21日頃に飛来したウンカを起点とし、有効積算温度と佐賀市川副町の気温データ(第4版では7月22日までは実測値で以降は平年値、第5版では7月31日までは実測値で以降は平年値)を基に作成した。その結果、第5版は第4版と比べ、各飛来虫の、その後の発生時期は約0～1日遅くなったが、全体としてほとんど変わらない。
- 普通期水稲には、6月6日飛来虫は定着していないと考えられる。この例のように、各飛来波に対する防除の重要度は、田植え時期によって異なる。
- 本虫に対しては、幼虫ふ化揃い期の防除効果が最も高い。しかし、本年は断続的に飛来がみられたことから、飛来波ごとの幼虫の出現時期は異なると予想される。複数の飛来波の幼虫を、より効率的に防除可能と考えられる時期として「6/6、6/30、7/10飛来波を対象とした場合を実線赤枠(①、③)」「6/6、7/10、7/21飛来波を対象とした場合を点線青枠(②、④)」で示した。さらに、全ての飛来波を対象とした場合の体系防除の例(1～3)を、本図の右側に示した。
- 田植え時期に加え、地域、水稲の品種、これまでの防除歴等の違いによってウンカの発生量は異なるので、必ず圃場ごとの発生状況を確認したうえで、防除対策を講じる。
- 今後の飛来状況、気象経過に応じて、本図は更新する。最新情報は、農業技術防除センターのホームページで確認する。

#### 4. 大豆作情報（今後の管理）

##### 1) 培土

培土は、土壌の通気性を良くし、地際部分の茎を土で覆うことで新しい不定根の発生も促すため、根重が増え莢数や百粒重が増加し、多収となります。大豆の生育量確保と倒伏防止に効果があることから必ず実施しましょう。

培土 1 回目...本葉 2 ~ 3 枚の頃に子葉節の高さまで

培土 2 回目...本葉 4 ~ 5 枚の頃に初生葉節（子葉の上の葉）の高さまで

培土を行う場合は下図のように株元までしっかり土を寄せること。

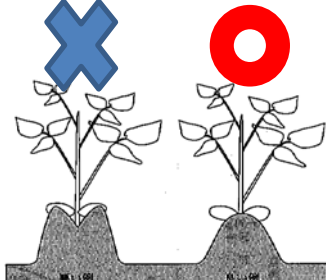


図. 培土における株元への土寄せ方法

##### 2) 雑草対策

本年は、播種後の土壌処理剤が降雨のため、散布されていない圃場や効果の低下した圃場が見られます。

イネ科雑草が多いところでは、ナブ乳剤（イネ科雑草 3~8 葉期まで）、ポルトフロアブル（イネ科雑草 3~10 葉期まで）で防除する。なお、大豆バサグランとナブ乳剤の混用は薬害を助長するので避ける。アサガオ類が発生している圃場が散見されるので、圃場内はもとより、まくら地や畦畔で発生している場合も、必ず抜き取るか薬剤散布での防除を徹底する。

出来るだけアサガオの本葉 2 ~ 3 葉までに処理する。ただしアサガオの種類によっては効果が劣る場合もある。

アサガオ類は、繁殖力が強いことからそのまま放置すると次年度以降、さらに発生量が多くなるので、初発での薬剤防除を徹底する。

また、近年ホオズキ類の発生も増加しています。アサガオ類同様、難防除雑草であるため徹底した抜き取り、薬剤散布を行ってください。

除草剤を散布する際は、周りの水稻にかからないよう注意し、無風時に処理する。

##### 【除草剤一覧】

	散布方法	薬量	アサガオ		ホオズキ	ヒユ	イネ科	その他広葉	備考
大豆 バサグラン	全面	100 ~ 150ml / 10a					×	~	だいたいの 2 葉期 ~ 開花前 (雑草生育初期 ~ 6 葉期) ただし収穫 4 5 日前まで
	畦間	300 ~ 500ml / 10a			~	~	×		だいたいの生育期 (雑草生育初期 ~ 6 葉期) ただし収穫 4 5 日前まで
Pasta液剤	畦間	300 ~ 500ml / 10a							収穫 2 8 日前まで (雑草生育初期)
ポルト フロアブル	全面	200 ~ 300ml / 10a	×		×	×	~	×	雑草生育初期 (イネ科雑草 3 ~ 1 0 葉期) ただし収穫 3 0 日前まで
アタック ショット	全面	30 ~ 50ml / 10a	つる化前	つる化後			×	~	薬害あり だいたいの 2 葉期 ~ 開花前 (雑草生育期) ただし収穫 4 5 日前まで